沖縄県がん登録室の紹介

大城 裕子[1]　古謝 由紀子[1]　山内 美幸[1]　仲宗根 一哉[1]　大城 真理子[2]
上門 要[2]　仲里 可奈理[3]　糸洲 名子[3]　宮里 治[3]
[1]沖縄県衛生環境研究所　[2]公立大学法人名桜大学国際学群経営情報教育研究学系
[3]沖縄県保健医療部健康長寿課

1. はじめに

沖縄県の人口は約144 万人で、2014（平成26）年の死亡数は11,361人、うちがんによる死亡者は2,965人（男性1,762、女性1,203）であり、総死亡の26%を占めている。今回は、2014年症例のデータを用いて、沖縄県のがんの特徴と沖縄県がん登録室の状況などを紹介する。

2. 沖縄県の登録状況

沖縄県のがん登録事業は、1988年に「沖縄県悪性新生物登録事業」として開始され、事業の当初から沖縄県衛生環境研究所内にがん登録室を設置し、現在に至っている。事業開始年の登録は313件、その後、年々登録件数が増加し、2016年は10,812件（全国がん登録12件、地域がん登録10,800件）、2017年は15,882件（全国がん登録12,709件、地域がん登録3,173件）を収集した（図1）。件数増加は、全国がん登録へ向けて病院等の関心が高まり、積極的に症例検索に取り組んだことが推察される。

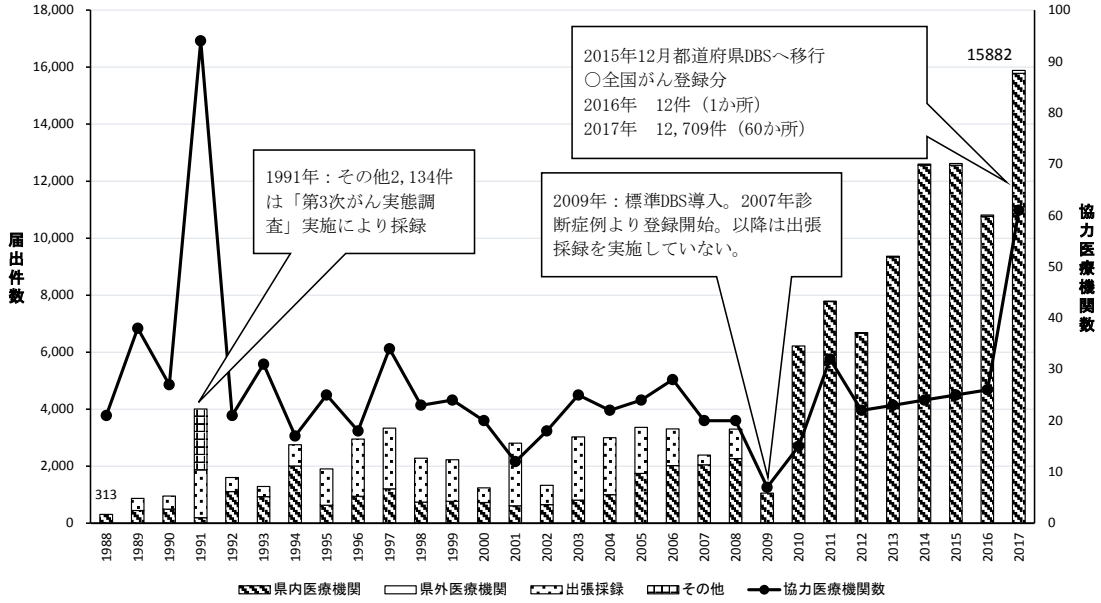

図1　届出受理件数と協力医療機関数（沖縄県）

3.　登録精度

2014年症例の登録精度は、DCO割合4.1%であり、年々精度が高まっている。

4.　沖縄県のがんの特徴

2014年のがん罹患数は、7,758件（男性4,166、女性3,591、不詳1・上皮内がん除く）であった。男性で最も多い部位は大腸であり、肺、前立腺、胃、肝及び肝内胆管の順であった。女性で最も多い部位は乳房であり、大腸、子宮、肺、胃の順である。全国（2013年年齢調整罹患率）と比較すると、男性の大腸、女性の乳房や子宮の罹患が多く、胃は男女ともに顕著に低い（図2）。

死亡では、男性で肺、大腸、胃、肝及び肝内胆管、膵臓の順、女性では肺、大腸、乳房、膵臓、子宮である。

また、年齢別の罹患の状況では、40-64歳以下が占める割合が男性29.2%、女性36.5%と全国より高い状況にある。75歳以上の罹患は全国と差が無いことから、沖縄県では、全国より早く罹患していることがうかがえた（図3）。

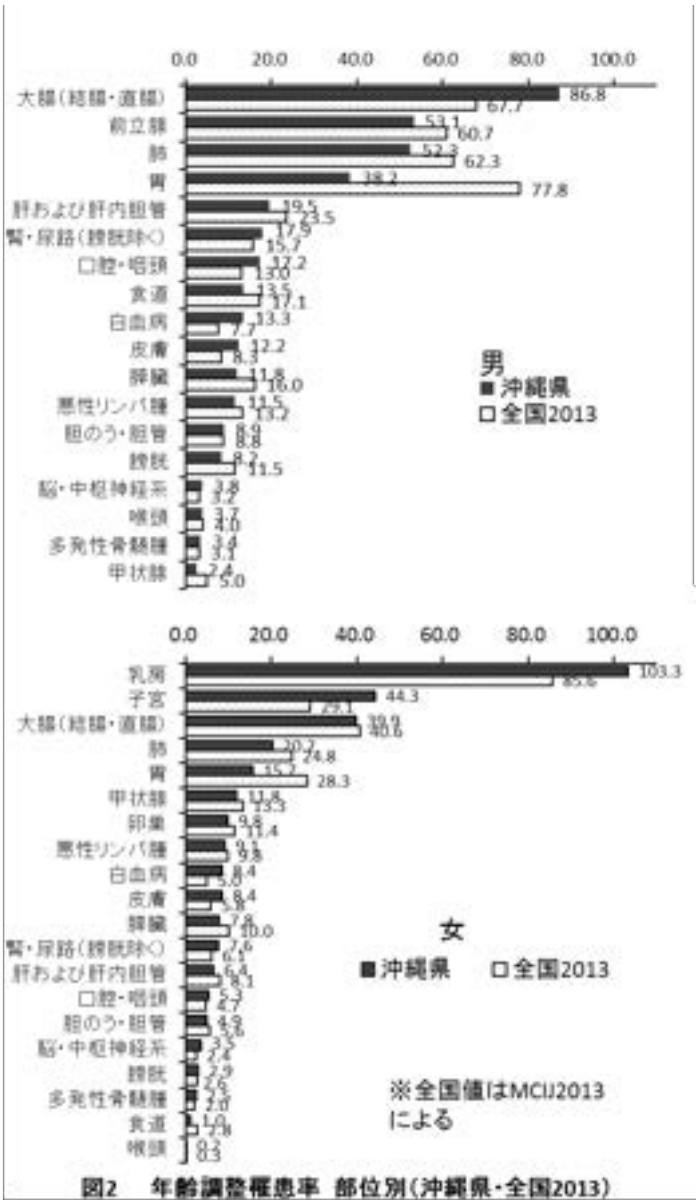

図2　年齢調整罹患率 部位別（沖縄県・全国2013）

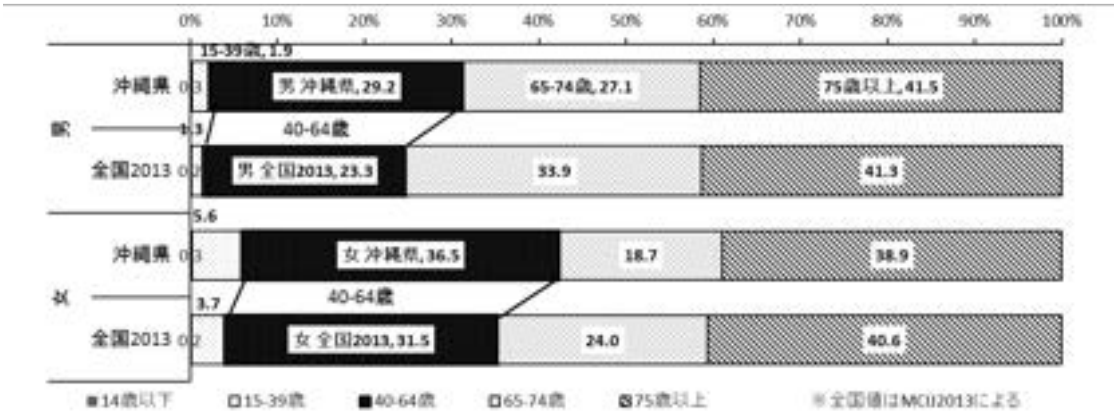

図3 罹患数 年代別割合 男女別（沖縄県・全国2013）

5. がん登録室から医療機関への届出支援とその課題

届出の際に生じた疑義照会は電話で行っているが、登録後に照会事項と結果をまとめて文書化し、送付している。さらに各医療機関で共通する事項や届出の流れなどをまとめて、がん登録室ホームページに掲載し、届出支援を行っている。

全国がん登録では、病院は届出義務が課せられる。2016年症例の届出が本格化した2017年は、全国がん登録分として12,709件（60医療機関）を受理した。件数の90%及び届出機関数の43%を、地域がん登録の経験がある医療機関が占めていた（表1）。

制度化により初めて届け出る医療機関では、件数が少ない医療機関がほとんどであり、細かい助言が必要であった。

届出のない病院は、地域がんの経験がないところが多く、制度の周知が不十分である可能性がある。2016年症例の届出がなかった病院に対して、今後、効果的な届出支援を行っていく必要がある。

指定医療機関	対象施設数	届出施設数	届出件数	地域がん登録の経験 あり	地域がん登録の経験 なし
病院（届出義務有り）	94	42	11,726 オンライン9,963 代行1,763	23か所　11,106件	19か所620件
指定診療所（手上げ方式）	51	18	983 オンライン　901 代行　82	3か所　278件	15か所　705件
合計	145	60	12,709 オンライン10,864 代行 1,845	26か所　11,384件	34か所　1,325件

2017年に届出された全国がん登録（2016年症例～）：12,709件（60か所）

- 地域がん登録経験がある医療機関は、届出箇所で43%、届出件数では90%を占め、ほとんどがオンライン届出をしていた。
- 届出があった病院のうち、地域がん登録の経験がない（全国がん登録から参加した）施設19か所では、一部の病院で100件以上の届出があったが、ほとんどが1件から30件ほどで、施設当たりの件数は少なかった。

表１　2017年届出状況（全国がん登録分）